

奈良絵巻 竹とり たけとり（竹取の翁）かぐや姫
2025-03-01 現在 酒井雁高（浮世絵・酒井好古堂主人） <https://www.ukiyo-e.co.jp/3864>

外題：竹とり 三巻 奈良絵巻（極メ、箱入り） * 奈良絵巻は一般に泉州・堺で制作された
* 極メが付いているが、筆、画ともに真筆でなく疑問（書跡専門家の御意見）
所蔵：日本・個人

筆者（ふで八） 明之言 * 「言」の一字名は、大納「言」で、阿野実藤（1634-1693）
絵八：土佐光隆 ある史料では定家の頃、とすると全く年代が違う
箔を付けるために、書かれているが、筆、画ともに、妥当でない。

- * 案の如く、この極メ、書跡の専門家の意見では、箔を付けるための後付けで、筆、画ともに真実ではないと。
- * 管見の範囲であるが、竹とり翁絵巻では最高水準の極細密な作品であると確信している。
- * 私（酒井雁高）も、数え 80 歳となり、このまま個人で所有することは困難である。
- * 文化史、国文学、美術史、民族学など、総合的観点から評価してくれる公的機関（大学、博物館、美術館など）が、十分な予算を確保し、購入し、保管してくれることを希望している。
- * 「物語の出で来はじめの祖（おや）なる竹取の翁」（紫式部／源氏物語）



縦 x 横 x 高 37 x 24 x 9 cm

肉筆（筆八）：専門の筆耕が底本を臨書している。使われている漢語は限られていて、殆どが、ひらがな。自筆本・竹とりの流れを汲んでいる。1590s（慶長）古活字十行本が、かなり合致するが、1570s（天正）以前の古写本が底本になる可能性もある。* 本来、筆八天皇、親王、三筆など
901 竹取物語、903 伊勢物語、905 古今和歌集、935 紀貫之／土佐日記
* 竹取は、ひらがなで書かれた最初の歌物語、この絵巻の筆八（詞書）は、その意味で尤も重要である。

肉筆（画八）：極精彩画、書物紙（間版あいばん奉書） 33.3 x 50.0 cm これが基準で、二枚繋げたものを 2 と数えると巻 1（9 点）巻 2（7 点）巻 3（8 点）合計 24 点 豪華、また土佐派の描法、人物の表情など、サラリとした画趣が快い。

試みに、読み下し文を作った。誤認、誤記もあると思う。諸賢の修正をお願いします。

***** 竹とり 翻刻 1-30K .egwud テキスト全文

***** たけとり 上中下 長さ

***** 竹とり 明細 1 2 3_OK.egwud

